

空気が乾燥して火災が発生しやすい時期です

山火事に注意！！

日本は国土の約7割が森林であり、森林は国土の保全、水源のかん養など私たちの生活に大切な役割を果たしています。

また、最近では地球温暖化防止のための二酸化炭素の吸収源として期待されています。

ところが、森林は一旦火災などで失われると、その大切な機能が回復するまでには何十年もの年月と多大なコストを要することになります。

山火事のほとんどは、人間の不注意によって起きています。このことは、私達一人ひとりが火の取扱いに注意することで山火事を未然に防止できるということでもあります。

かけがえのない貴重な森林を守るため、皆様のご協力をよろしくお願いします。

日本では山火事はどの位発生しているの？

直近5年間(平成30年～令和4年)の平均で見ますと、1年間に約1.3千件発生し、焼損面積は約7百ヘクタール、損害額は約2.4億円となっています。

これを1日あたりにすると、全国で毎日約4件の山火事が発生し、約2ヘクタールの森林が燃え、約70万円の損害が生じていることとなります。

(参考) 1アール=100平方メートル、1ヘクタール=10,000平方メートル

近年の林野火災の発生状況

区分/年次	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	平均 (平成30年～令和4年)
出火件数(件)	1,363	1,391	1,239	1,227	1,239	1,292
焼損面積(ha)	606	837	449	789	605	657
損害額(百万円)	202	269	201	176	345	239

資料：消防庁統計資料に基づいて作成



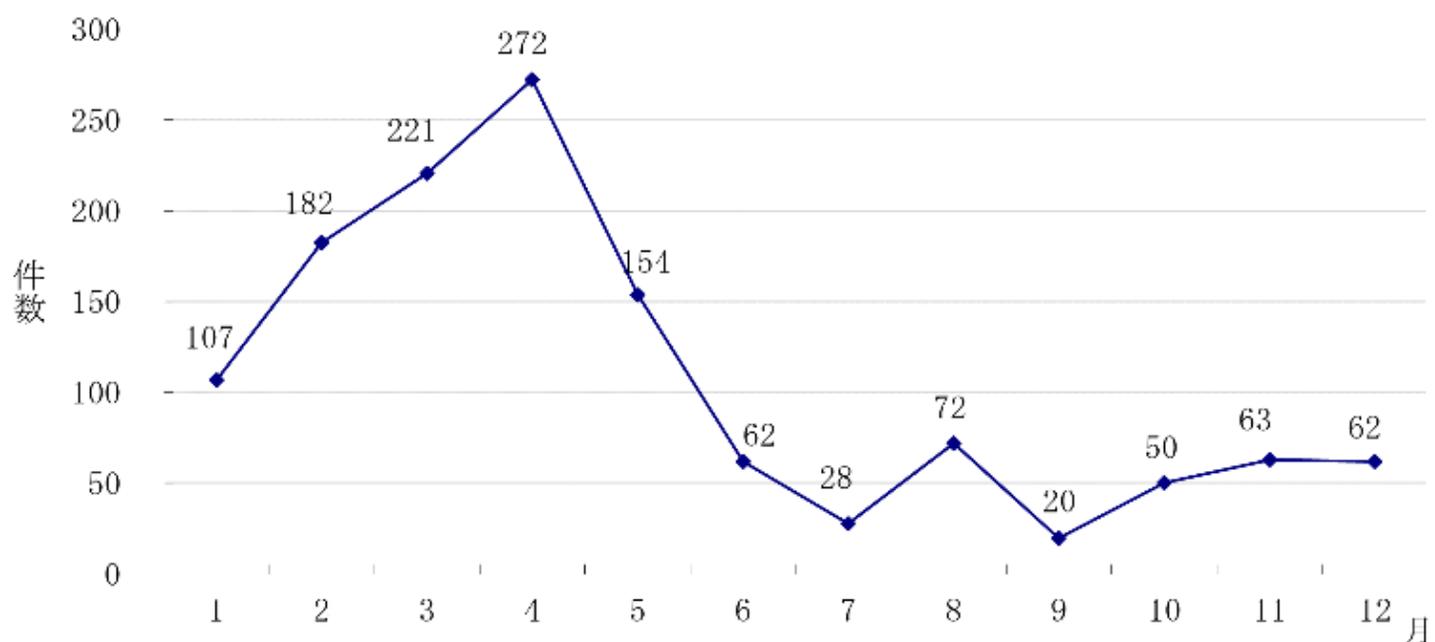
山火事のおきやすい時期はいつ？

山火事の発生には季節的な特徴があります。

山火事の約7割が冬から春(1月～5月)にかけて集中して発生しています。

これは、冬は森林内に落ち葉が積もって燃えやすい状態になっていることや、風が強いこと、特に太平洋側は乾燥した状態になるといった自然条件が重なること、また、春先は、行楽や山菜採りのために山に入る人が増加するほか、農作業に由来する枯草焼きなどが山林に飛び火することも原因となっています。

月別発生件数（平成30年～令和4年の平均）



資料：消防庁統計資料に基づいて作成

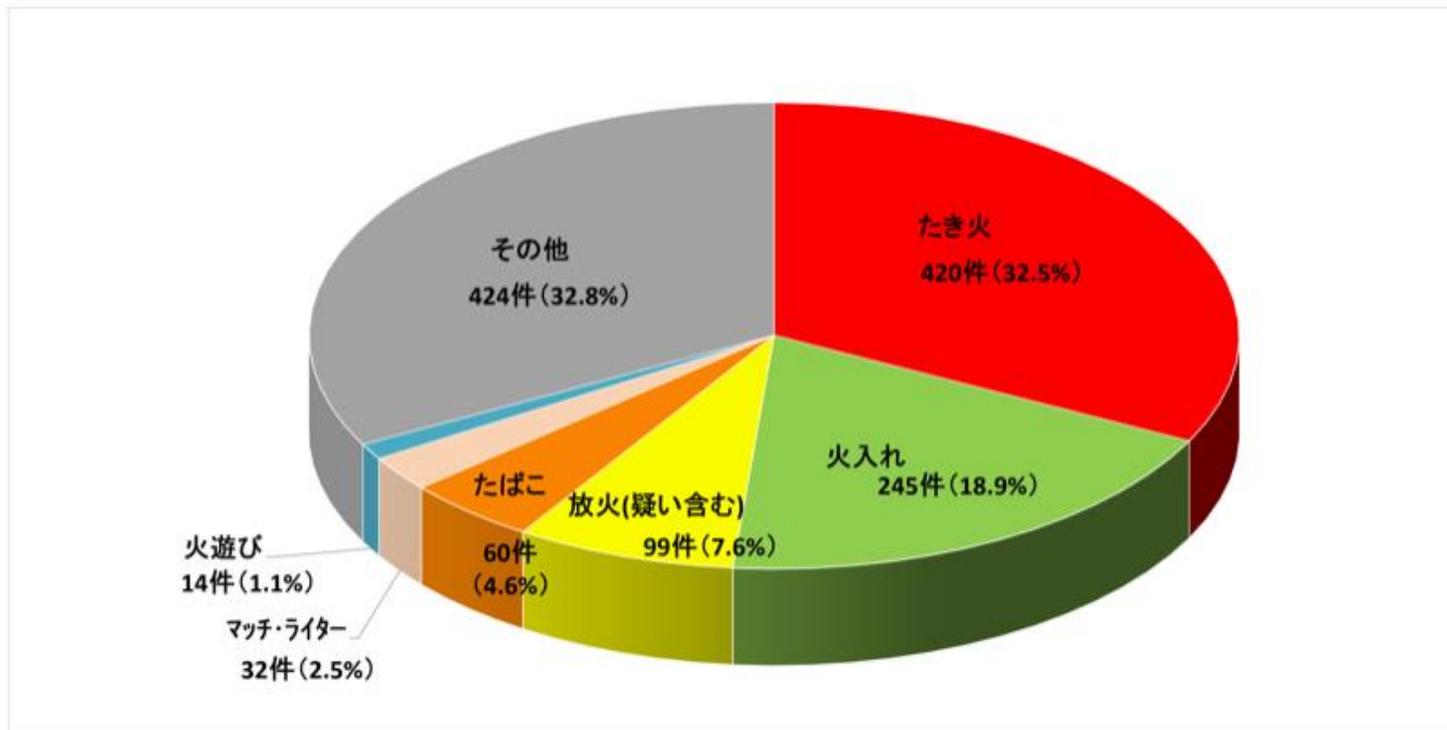
山火事の直接的な原因にはどのようなものがあるの？

発生した林野火災のうち原因が明らかなものについてみれば、「たき火」が31.4%で最も多く、次いで「火入れ」、「放火(疑い含む)」、「たばこ」となっています。

我が国の林野火災は、その多くが人間の不注意などによるものとなっています。一方、落雷など自然現象によるものは稀です。



原因別出火件数（平成 30 年～令和 4 年の平均）



資料：消防庁統計資料に基づいて作成

山火事予防に当たって注意することは？

一人ひとりが森林の大切さを認識し、防火意識を高めることが最も大切です。山火事の原因の多くが、人のちょっとした火の取扱いの不注意で発生していることから、

- ・ 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと
- ・ たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること
- ・ 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと
- ・ 火入れを行う際、許可を必ず受けること
- ・ たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと
- ・ 火遊びはしないこと

貴重な森林を山火事から守るため、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。



（問合せ先 0947-44-6256）

田川地区消防本部 予防課予防係